



発行所
北海道新聞
釧路支社

郵便番号 080-8655

釧路市黒金町11丁目5番1号

報道部 電話 0154-31-3550

©北海道新聞社 2015

釧路市民陸上競技場横を勢いよくスタートする30キロマラソンの選手たち



霧雨の釧路 快走

第43回湿原マラソン

19種目4220人エントリー

第43回釧路湿原マラソン(釧路市、釧路市体育協会、釧路陸協、北海道新聞社など主催)が26日、釧路市民陸上競技場発着で行われました。30キロ、10キロ、3キロのマラソンの部と30キロ、15キロのウォークの部に総勢4千人余りが参加。霧雨の釧路湿原周辺のコースを思い思いのペースで駆け巡り、心地よい汗を流しました。大会は男女や年代別などの19種目で実施され、マラソンの部に3691人、ウォークの部に529人がエントリーしました。合計4220人は昨年を下回りましたが、4年連続で4千人を突破。東京や大阪、沖縄など道外からの参加者も342人を数え、大会がマラソン愛好者の間で定着したことを物語りました。

午前8時半からの開会式では、実行委員会会長の蝦名大也釧路市長のあいさつに続いて、2011年大会の男子30キロ(39歳以下)優勝者で、5年連続の出場となった招待選手の川内優輝選手(埼玉県庁)が「今年は涼しく、これぞ釧路という天気。皆さん自己ベストを目指して頑張ってください」と選手を激励。3キロに出場したアイスホッケー日本製紙クレイズの竹内元章監督も「足下が悪いので、けがに十分気を付けて、好タイムを狙ってゆきましょう」と呼びかけました。

そして、3キロ親子で走ろうの部の岩城弘法さん(42)、梓さん(33)夫妻と長女の妃奈さん(9)が「日頃の練習の成果を十分発揮し、最後まで全力を尽くし、ゴールすることを誓います」と選手宣誓しました。午前9時で、気温17.4度と涼しく、釧路ならではの霧雨の中でのマラソン。30キロを皮切りにスタートした選手たちはそれぞれが思い描いたタイムを目標にゴールを目指して力走しました。また、開会式に先駆けて出発したウォークの参加者も湿原周辺の風景を楽しみながら軽快に足取りを進めました。

大会運営には釧路市スポーツ推進委員協議会、生命保険協会釧路協会、釧路市点訳赤十字奉仕団など45団体、1000人余りが携わり、給水や救護などを担当して市民ランナーの力走を支えました。



インターネットで道新ニュース
dd.hokkaido-np.co.jp

ご購入申し込みは
0120-464-104

暮らしでトクする、サービス・特典いっぱい!

入会費・年会費 無料!

学ぶ

- 道新・道スポ紙面に登場した話題の人物を招いた「講演会」
- 道内外の大学などとの連携で学ぶ「教養講座」
- 話題作を全道各地で「ぶんぶん映画鑑賞会」
- プロスポーツを肌で体感「ファイターズ・コンソードレ戦ご招待」
- 自然や味覚を楽しむ旅「ぶんぶん特別ツアー」
- 道新ポケットブックをテキストに料理教室「幸福料理実習会」
- 札幌交響楽団など「各種コンサートに優待・招待」
- 会員登録でさまざまな割引・特典「加盟店サービス」
- 道新の新聞本に感想を寄せて「新刊モニタープレゼント」
- 道新と道新スポーツの記事や写真を割引提供「マイクリップ」「写真サービス」など

楽しむ

役に立つ

道新ぶんぶんクラブ

ぶんちゃん

北海道新聞社

■お問合せ■ 北海道新聞 釧路支社内 道新ぶんぶんクラブ(釧路)事務局 〒080-8655 釧路市黒金町11-5 ☎(0154)31-2719 (平日 9:30~17:30)

早朝の新釧路川沿いを歩く30キロウォークの参加者



選手宣誓をする岩城弘法さん、妃奈さん、梓さん親子(左から)



元気よくスタートする3キロ小学生3、4年の部の選手たち



開会式であいさつをする川内優輝選手

KUSHIRO SHITSUGEN MARATHON
釧路湿原マラソン



スタート前に準備運動をする出場選手たち



私たち釧路トヨタは、特別協賛企業として
釧路湿原マラソンを応援しています。

競技車両を提供させていただきました。

先導車/プリウスPHV

救護車/エスクァイアハイブリッド

監察車/クラウンアスリートハイブリッド4WD

KUSHIRO TOYOTA GROUP



釧路トヨタ自動車(株)

本社/釧路市鳥取大通6丁目4番3号 TEL0154-51-3161

お客様相談ダイヤル ☎ 0120-40-3161 URL <http://www.946toyota.com/>